

レックリングハウゼン症候群について

病 名	病気の症状や対応について	難病の団体・H P
レックリングハウゼン症候群	<p>◇症状及び治療法</p> <p>神経線維腫症は、皮膚、神経を中心に人体の多くの器官に神経線維腫をはじめとするさまざまな異常を生じる遺伝性の病気。神経線維腫症には大きく分けて二つのタイプがある。神経線維腫症Ⅰ型と神経線維腫症Ⅱ型と呼ばれる二つのタイプである。神経線維腫症Ⅰ型は神経線維腫と呼ばれる腫瘍（できもの）や色素斑（しみ）など皮膚症状が強く、神経線維腫症Ⅱ型は両側の聴神経（音を感じる耳の中の器官を支配する神経です）の腫瘍を主体に皮膚病変の少ないタイプである。</p> <p>神経線維腫症Ⅰ型の主な症状は皮膚にできる色素斑（しみ）、皮膚の神経線維腫、目、骨の病変などだが、稀なものまで含めるとかなりたくさんある。生まれたときにはなく、思春期頃から少しずつできてくるのが普通。同様に、神経線維腫の数にもかなりの個人差がある。現時点では、患者さんを完全に神経線維腫症Ⅰ型から解放できるような根本的な治療法はない。しかし、神経線維腫症Ⅰ型によってもたらされるいろいろな症状に対する治療は可能。脊椎の曲りが強いときは、支柱をつける手術ができる。</p> <p>神経線維腫症Ⅱ型の腫瘍はほとんどが良性腫瘍だが、腫瘍による症状が出現したら、手術による摘出が必要。最も問題になるのは聴神経鞘腫の治療。聴神経鞘腫を摘出せずに経過を見ると、いずれ聴力はなくなり、腫瘍が大きくなると生命の危険がある。しかし、手術して腫瘍を摘出すると、多くの場合聴力はなくなり、顔面神経麻痺を合併することもある。腫瘍の成長が明らかな場合や、聴力が低下した場合には、治療が必要。外科手術の他に、ガンマーナイフなどの放射線手術も小さな腫瘍には有効で、多くの場合腫瘍の成長をコントロールすることができる。ただし、聴力の温存率は高くない。</p> <p style="text-align: center;">（難病情報センターより）</p>	<p>難病情報センター http://www.nanbyou.or.jp/sikkan/050.htm</p>

